

教育課題検討委員会 第5回 議事概要（公開用）

平成 29 年 4 月 18 日(火)19:00～21:00

総合福祉センター 3 階集会室

出席者： 検討委員（三木信行委員欠席のため勝浦隆史代理委員 出席）、意見聴取者（香川大学教育学部 片岡元子 准教授）、事務局

（教育長）

第4回の検討委員会の内容の概略を、要約というかたちでお配りしました。前回の確認ということで挨拶に代えさせていただけたらと思います。

これを受けて、ご審議をお願いしたいと思います。

（会長）

本日は、ご案内したとおり、幼稚園小学校のあるべき姿の確認、それを実現するための適正配置、また目標年次、これらが今回の協議事項となっています。

幼稚園については小学校に比べると喫緊の課題ということもありまして、幼稚園教育の今後の在り方について、香川大学教育学部の准教授片岡先生を意見聴取者としてお招きしました。先生は、長い間、幼稚園現場で教育実践を積み重ね、また香川大学において幼稚園教育について研究をされておられます。当委員会にとりましても、貴重なご意見をいただけるものと考えています。

【意見聴取者・片岡元子香川大学准教授 講話】

内 容

幼稚園での教育について

- 1 幼稚園とは
 - (1) 教育基本法
 - (2) 学校教育法
 - (3) 幼稚園教育要領
 - (4) 幼稚園ってななに（文部科学省）
- 2 地域に根ざした少人数での保育について
 - (1) メリット
 - 地域の幼稚園
 - ・地域の活性化
 - ・地域や地域の人々との豊かなふれあい
 - ・地域への愛着の気持ちの醸成
 - 子どもと教職員との温かな関係の構築

- ・教員の目の届きやすい 安定した生活
- 小学校との日常的な連携
 - ・地理的条件（同一敷地内、隣接）を生かした連携の推進
- (2) 課題
 - 子ども集団が小規模化)
 - ・集団生活での経験（切磋琢磨すること、協力・協同、トラブルや葛藤）が不十分
 - ・多様な人とのふれあいが不十分
 - ・子どもの人間関係が固定化
 - ・教員との緊密な関係 多大な影響過剰なかかわり
 - 教職員集団の小規模化
 - ・子どもがかかわることのできる教職員数が限定
 - ・若年教員の増加する中、園内における教員同士の意見交流・資質向上等の機会が限定
 - ・園外研修への参加が困難
 - 地域との連携による負担の増加
 - ・地域との交流に向けた準備・活動による負担増・多忙化
 - ・幼児期の重要な学習である遊びの時間の確保が困難
 - 保護者集団の小規模化
 - ・保護者の人間関係の固定化・保護者同士の交流（親育ち）の機会の限定
 - 運営の非効率化
 - ・人的配置（正規職員・加配・子育て支援員等）
 - ・施設設備
- 3 県内の状況
 - (1) 就学前教育にかかる施設のあり方の検討
 - 市町の動向
 - ・幼稚園の統廃合
 - ・幼稚園と保育所の一体的施設
 - ・幼保連携型認定こども園への移行
 - 現状と課題
 - ・新しい施設で園経営や保育実践をしていくための模索
 - ・保護者同士の関係性の構築に時間が必要
 - ・自家用車での送迎の増加による体力の低下や自然体験等の減少
 - (2) 保育の質の向上に向けて
 - 香川県幼児教育推進構築事業
 - ・香川県教育センターに幼児教育アドバイザーの配置、市町への派遣
 - ・リーダー養成研修の実施

- ・ 幼保、公立私立の垣根を越えた研修体制の構築
- 市町の研修制度の充実・ 幼児教育担当指導主事の配置
 - ・ 幼児教育アドバイザーの配置
 - ・ 各市町に合わせた研修体制の構築
 - ・ 大学との連携による研修の充実

(会長)

・ 貴重なご講演ありがとうございました。委員の皆さまから、ご質問ありましたら、どうぞお願いします。県内の市町の状況について、少しお聞かせ願えたらと思うのですが、坂出が5幼稚園を1幼稚園に統合ということで、これは、何年頃ですか。

(意見聴取者・准教授)

もう10数年前ですね。市街地の幼稚園と島嶼部で沙弥島とを一緒にして、新しく坂出中央幼稚園とされました。

どんどん幼稚園の園児数が少なくなっているのでも、廃園になっているところもありますし、休園を経ての廃園や、2つを一緒に3つを一緒にというところもあります。

(会長)

ほとんどの市町がそういう状況だと受け止めていいのでしょうか。

(意見聴取者・准教授)

まだ、川津とか西部、林田など残っている幼稚園もありまして、市街地の方は、おそらく今の状況で言うと、どんどん園児数が少なくなっていて、私立へということもあって、そういう中であって、でも市の幼稚園教育は残していきたいという考えの中で、市街地は1つになったけども残したということじゃないかと思います。

(教育長)

それは新設の幼稚園、新たに幼稚園を作ったということですか。

(意見聴取者・准教授)

はい、東部小学校の横のところ。中央幼稚園。

(代理委員)

小学校もね、東部のところに沙弥とかを合わせて中央小学校に。

(代理委員)

園舎は、元の東部幼稚園の園舎を使っていますね。少し綺麗に直していましたが、ね、駐車場広くしたりしている。

(意見聴取者・准教授)

本当、おっしゃるとおりです。でも、本当に一番街の真ん中に幼稚園を持ってきて。

(代理委員)

真ん中ですね。どんどんドーナツ化現象で子どもが減っていたから。小学校も、一緒になったのですけどね。

(意見聴取者・准教授)

それも、もう10数年前になりますね。園児数の減少は、多分いろんな町が経験している。

(会長)

逆に、全くそちらの方向に進めていないという市町はないのでしょうか。

(意見聴取者・准教授)

やはり園児数が。高松もこども園化していますし、さぬき市も今やろうとしていて、東かがわもしていますし。三豊が、今のところは、幼稚園は幼稚園でということらしいですが。でも、そこでも保育所が民営化するとか。

(会長)

それでは議題2に入ってまいりたいと思います。先生のお話にも関連しますが、あるべき姿を実現するための適正配置の方策について、前回にも出ましたが、再度、事務局が整理をしていますので、これについて事務局より説明をお願いいたします。

【事務局より説明】

(会長)

ありがとうございます。重要なところになりますね。ただ今の説明について、まずご質問いただけますか。資料②資料③については、割愛されておりますが、大事な部分でございますので、これについて確認をしたいこと、何か質問をされたいことがありましたら、どうぞおっしゃっていただけたらと思うのですが。

できれば、今日、適正配置数の案を絞り込むということにするのか。

(教育長)

方向性というか。決定するのは、まだ。

(会長)

決定は今日ではないですね。ただ、ご意見を伺いたい。

(教育長)

はい、意見はいただく。いえ、いただくわけですが、幼稚園、小学校の数については、今日の議論を受けて、次回には、各委員さんに一人ずつご発言をいただけたらと思います。

(会長)

わかりました。次の委員会までに、お一人ずつ何か、ご自身の案を理由とともに、発言いただきたいと思います。そのためにも、この資料を十二分に確認をしていただきたいと思いますので。少し、お時間をとります。

(委員)

単に2園がいいとか、数の議論だけでなく、適正配置も含めた話で、端的に言うと、3園案だと、アットランダムに3園案にするのではなくて、1番園児数が少なく、今の喫緊の課題である白方幼稚園の状態を、解消していくということになるでしょうし、特定の名前を出すとそうなりますが現状で課題があると言える園、そこだけを解消するというのが3園案の意味でしょうし、その2園案にもアットランダムの2園ではなくて、一定の意味があつての2園案ということなので、単なる数だけの話ではないのかなと思います。

(教育長)

議論の中で、そういうのは必ず必要になってくるのだけれど、だけど全体の大枠の面から、まずは1園か2園か3園の妥当性から決めていって、具体の中で、どういう2園案がいいのか、どういう3園案がいいのかというのが絞られてくるのではないかなという気がするのですけど。

(委員)

現状、複式になっているところを解消するため、そのところだけを統合するのか、それがあつての3園だったり、それより更に進めるということで2園になるのか。それがないと2園案がいいという根拠が出てこないのかな、と。

(教育長)

それは、2園案と3園案の場合においてですよ。

(委員)

最初に2園案というのが出てくるのは、なぜ2というのが先に出て、次の段階に進んでくるのが良くわからない、ということがあるのではないかな、と。最初に数ありきではないだろうな、と。

(委員)

非常に生々しい話とセットになっては、きますけどね。そこが非常に難しいところで、単に2が良いと、2から具体策を考えていくのもどうなのかな、と。

(教育長)

1園案と4園案の主張ははっきりしていますよね。

(委員)

4園案というより、現状案。

(教育長)

だけど、そういう捉え方をまずしておいて、2園案と3園案の内容が焦点化されていったら、具体的にどのような2園なのか3園なのかということが、出てくる。

(委員)

あるべき姿を実現するための適正配置の案なので、現状で、あるべき姿にないものだけを解消するのか、将来、あるべき姿でなくなる可能性が高いものも含めて解消するのか。それが先にあると、3園、2園というのが出てくるのではないかな。

(会長)

その2つは、どちらかと言えば後者でしょうね。今後、将来を見越して、と言うことが大事ですよ。それは、今までも話し合ってきたことだとも思いますから。将来そうなるのであれば、先送りはしないというか。

(委員)

そんなに先ではないのかもしれませんがね、幼稚園の場合。

(委員)

3園という答えが出たとしたら、将来的に、どの年数でそういうふうにするのか。また、15年先に2つにせんといかんとかがあって、もっと縮小せんといかんとかいうのがあるのか、ずっと先までも、これで行くんやという考えで決めるのか。

(会長)

今の議論で言うと、段階的ではなくてすね。一気にやるという。

(委員)

3園案になると、どうしても段階的にせざるを得なくなる。

(会長)

もちろん、2園案とて、単なる2つの組み合わせなのか、全く今の学校を見直してしまうのかというところもあるでしょうしね。そういうことを踏まえての、どちらが先かということになる。

(委員)

幼稚園は、例えば2つにした場合に、小学校に行く時に、また別々の小学校にばらけて行くようになるのですよ。

(会長)

幼稚園が先行した場合ですネ。

(委員)

今の逆のかたちになるのではないかな。中学校の場合は1つやから、そのほうがよいけど、逆に小学校はばらけていくようになる。

(委員)

それは、幼稚園と小学校を同時に再編しない限りは、そういうことは、段階的にやったとしても発生してきますよね。

(委員)

校区という見方でしたら。

(会長)

移行期を作るのか、小学校も含めて一緒にしたほうがいいのかというご意見でもありましたが。

(委員)

緊急性はどちらが高いのか、急ぐ必要があるのかという、後のテーマにも関わってくるであろうと思いますね。

(会長)

今のお話でも幼稚園の方が先行というのが、確かにありますけれどもね。それなら、幼稚園の子たちがちょうど卒園する時に、小学校ができるのが理想ではありますね。

(委員)

中身がちがう話で申し訳ないのですが、高松の市内で、小学校3つが一緒になって1つにした。ところが、行政的な面で、なかなかひとつになれんというのがある。例えば、自治会。そういうのもひとつになれないところがあって、ちぐはぐというか、そういうのもあると聞いたのですが。

(委員)

現行でも、白方小学校で、奥、西、東、見立とか分かれていますよ。

(委員)

それは白方の中やから。学校が一緒になったからといって、他の地区だったところと、なかなか一緒になれない。

(会長)

先生のお話にあったように、地区の、地域の、という意識があったのが、このような場合、一緒になることもあって。だけれども、年数を重ねることによって、むしろ自治会の方が、後から追いかけて、一緒になっていくということがあるではないかということでしたね。

(委員)

果たして、それにどのくらい時間がかかるか。

(委員)

豊原と多度津の場合は選択地区っていうのがあるから、現在も自治会と学校区にずれがありますよ。

(会長)

どちらかと言えばデメリットだというのは、ここでもお話いただきましたよね。市町村合併というか、多度津の4つの村が一緒になったのにも時間がかかったのに、と。

(委員)

まだ残っているかもしれない。

(会長)

残っているから、この問題が出るかもしれませんね。
どうでしょうか。資料についてのご説明、質問等は？

(教育長)

今、皆さんのお話を伺っておって、2園案と3園案は、どういう2園案なのか3園案なのかという項目があった方がいいということですかね。

(委員)

考え方は必要だろうと思います。

(委員)

自分の2園と、他の人の2園はちがうということがあってはならないので、こういう2園案ですよという見える化はしておかないと。

(会長)

ですから、今回は意見を持ち寄るということですが、一旦お委ねして、この組み合わせで、何園案というご意見を持って来ていただくであるとか。それか、今日ここで、2園案というのはこの組み合わせですよというのを決め切ってしまうのか。そこで、次回までに持ち寄っていただいてということでは、いかがでしょうか。

(教育長)

今は、その概念を、色んな捉え方があることを、しっかり理解していただいて、その上で、各々がこういう案が良いのではないかとということも含めて、話をしてもらえたらありがたいということで、構いませんか。

(会長)

ご意見していただけたら。責任は大きいかもしれませんが。

(委員)

さっき、先生からお話がありましたように、幼児期は人間形成の上で、一番大事な時期だ、と。だから一番に、子どもを中心に考えた方が、今、色んな子どもが、精神的に問題を抱えた子だとか、小学校の先生も困っておいでだけれども、その点も、幼児期に集団生活を学ぶ、我慢するということが必要で、本当に少人数の、クラス替えもない、父兄さんもちよつとの人数のお母さん達でしか話し合えないというのは、井の中の蛙になり得ない。多度津の場合、島国中の小さな町やから、今度、大きな社会

に出ていくときに、親も子も「あれ？こんなことではなかったのに。」というように、大きくなってから学んだのでは取り返しがつかないので、それを考えた時に、いろんな自治会の問題とか、細かい問題もあると思うのだけでも、本当に子どもが将来良いかたちで教育を受け、すばらしい人間になってもらうには、どうしたらいいかということ、私は一番の選択の材料に考えたいと思います。

(会長)

貴重なご意見であったと思います。今の子どもたち、もちろん将来もですが、どうしてもそこが先に立ちますよね。

(委員)

本当に、幼稚園から小学校1年生に上がりますよね、その時に子どもが、ガラッと変わるのです。年長さんから1年生になると、1ヶ月もしないうちでも、やっぱり1年生になると、上の学年のお兄さんお姉さんを見て育つからきちっとする。年長さんは、下の学年しか見ないから、その点で1年生とは成長の度合いが全くちがう。そういう点を見ても、子どもにとって、環境ってすごく大事やなど、この時期、4月5月になると思うのですよね。だから、そういうことも考えて、多度津は教育の町っていうのを押し出していったらいいかなと思っております。先生の資料を読んでもね、本当にずしんと来るものがありました。「多くの友達と」っていう部分でね。

(教育長)

あるべき姿を実現するための適正配置という、この図で、先生もおっしゃったけれども見える化になっておるかな、ということで、できれば順序性とか、それも含めて考えていかないといけないのかなあ、と。今大事にすべきことは、項目の1番上に来ているのだということや、それと合わせて項目を並び変えて何が大事かということを考える、それが必要なのかな、と。これ以外にもし、あるべき姿を実現するためにこれが要するというのがあれば、出してほしいと思います。

(課長)

奇しくも教育長と同じような意見なのですが、先生から見て、ここの点についての協議をした方が良いのではないですかというところがあれば、ぜひ教えていただけたら、と。今まで協議の議題というか、そういったところで上がってきたのが、この図の項目であると思うのですが、もし足りていないものがあれば教えていただきたいなと思い、発言をさせていただきました。

(会長)

このメリットデメリットで書かれたものの中で、ここにまだはっていないもの、

委員さんがおっしゃった、人格形成に、どう有効かという項目もないように思いますが、一番大事だと思いますし、もうひとつ、地域との連携も、ないかなという気がします。

(意見聴取者・准教授)

こちらに、事前にお話を伺いに来た時に、こういう議論がされているという状況を少し説明していただいて、私が考えることは、すでに話題で出ているということ、まず感じました。今日、そのうえで、私が来て、何ができるのかと考えたときに、お話しできるのは、子どもの保育・教育にとって、どういうことが大切なのかということかと思って、冒頭のところで教育の法律や幼稚園教育要領についてお話をさせていただいたので、施設とか環境とか人的な配置、外枠のところは、ここで十分に項目にも上がっていると思います。そのうえで、子どもにとって何が一番大事なのかということを皆さんに考えていただければ、それが良いのかなあということは思っています。ただ、この順番で優位性をつけるというのも、教育長さんの話を聞いて、なるほどなあとは思いました。

(会長)

なるほど、この順序性というのも事務局の方で、次回の判断にあたって作り変えていただいて。委員会の前ではなくて、事前に、時間を持っていただけるようにということをお願いできればと思います。いかがでしょうか、難しいですけどもね。今の図で、下のほうにあるものが、優先度が低いというわけではないでしょうし、そういうふうに皆さん受け取ってもないと思いますけども。

(委員)

会長が言われたように、地域コミュニティへの影響というのは、項目を加えておくようにする。

(教育長)

中身で不適切なもの、これは変えたらよいかなというものがもしあれば。

(委員)

さっきの話に戻りますが、何も、特定の学校のこと言うつもりはなくて、現行で複式になっている園をなくするための案が3園案ですよ、とか。2園案であれば、将来の一定期間内に複式学級になる恐れがあるところも含めて解消するのが目的ですよ、とかの園数の案の意味性を整理した方が、さっき委員が言われたように、共通認識の下に、どの案が好ましいかということを集約しやすいとか、同じ意味で、こちらが良い、こちらがよくないという意見が揃うのかな、と思いました。

(教育長)

その表現の仕方として、3園案で、どことどこが、とか固有名詞が出ない方が良いでしょうね。

(教育長)

この適正配置のマトリックスで考えたら、どうしてこの項目を挙げたかということと、それが幼稚園教育の在り方でどうあるべきかということと、そういう文言をつけて、今後どういう状況になっていくかということろまで説明をつけて、このマトリックスを見るというかたちにしていったら良いのかなという感じがしています。

(委員)

たぶん10年先、20年先とね、数が減って行って、どこの幼稚園も1学級しかできないような時代が生じてくるのは目に見えたことなんやから、そういうことも踏まえて数値をね、ちゃんと出しとってもらえたら。ここに、2060年という数字もありましたけど。

(会長)

議題の次にあるのが、それに当たりますかね。では、どうでしょうか、次の議題に入らせていただくということで。目標年次の考察ということで、事務局の方で用意していただいていますので、よろしくをお願いします。

【事務局より説明】

(会長)

はい、ありがとうございます。目標年次についての説明でありましたが、これについて、ご質問ご意見をお願いいたします。幼稚園が2020年、小学校が2022年ということでしたが。

(委員)

案ではなく、ひとつのポイントを示したものでしょう。ひとつの変化点とか、そういうものを捉えると、重複しているのがここだというふうに示されたということですね。

(教育長)

これ以外では、どの年にしたらいいかということがなかなか見にくい。今、入って

いる範囲のデータから言うと、ここぐらいを目途に設定したらいいという根拠を言えるポイントという、そう捉えたら良いですね。

(委員)

これは、実現可能ということで良いのでしょうか。実現可能なポイントということで。

(委員)

物理的には可能だということ。

(主任主事)

設計1年、1期工事の建設で1年であるとか。地元、保護者説明とかの期間については、ここでは全く加味されていません。

(会長)

他に、ご意見はないでしょうか。

(委員)

これも、先ほどの適正配置との絡みで、早くできる案もあるし、早くできない案もあるし、非常に難しいところではあります。適正配置は、ともかくとして変化のポイント点を第一に置くと、こういうふうなものになるということです。

(会長)

疑問点は、他にないでしょうか。今、お聞きした以外で。

(委員)

2020年に建て替えという話ではないのかもしれませんが、もしそうなったら、多度津中学校は現状ある土地に、そのまま建てたじゃないですか。1年くらいで、全部こうできるものなのですか。それとも、何年かかかるものですか。

(課長)

1年と半年くらいですね。建設だけで言えば。

(委員)

その前の段階も含めたら。

(教育長)

計画を立てたり、設計をしたり。設計をする前には、どういうものを建てたらいいかという基本構想であるとか。

(会長)

土地の取得もあるでしょうか。正直、急な感じが皆さんしているのではないかと思うのですが。

(委員)

2020年となると、2018年、来年にはすべてのことが動き出さない間に合いませんよね。

(教育長)

そうなってくると、難しい問題が出てくるのだけど、一応、今までのデータの中で、新しくするとしたら一番根拠が示せるのが、この年くらいなのかなあ、と。もちろん、その過程とかは度外視している。

(会長)

こうでなくてはいけないということではないのですが、根拠としては、ここがあがってくるという事で事務局としては、大きなポイントとして挙げられて、実際としては、どうかという理解を図らなくてはなりませんね。もし、他にないようでしたら、本当に今日は非常に重要な議論であったと思いますが、次回へ向けて、これらの資料をお持ち帰りいただいて、十分に咀嚼していただいて、意見を持ち寄っていただくということにしたいと思います。

(委員)

すみません、この2園案とか3園案とかを今後、具体的に考えていくっていったときに、子どもたちにとって何が一番良いかたちなのかということを先生が言われていて、なるほど、私もそれが一番大事だよねと思ったのですが、例えば、幼稚園を2園にして、小学校は4つあったときに、子どもたちは入学する時にバラバラに分かれるじゃないですか、今は、同じ幼稚園から同じ小学校に行っていますけど。保育所は、同じように結局バラバラになっていますが、でも、行った小学校で、また新しいお友達ができる、人間関係ができるのだらうと、そうは思うのですが、バラバラになることが子どもたちに与えるデメリットというか、影響の大きさというのは何かないのでしょうか。

(委員)

そのへんは、やっぱり小学校のクラス分けをするときに、配慮していただいている

と思いますけどね。そういうことをすれば、分かれていったとしても、それこそ町でやっている保幼小連携ということで、繋がりはできていると思いますし。

(会長)

再編するとしたら、ちょうど移行期といいますか、それでも、ちょうどそこに当たった子ども、保護者としては心配な部分ですよね。今のご質問については、先生のお立場から見ますと、いかがですか。

(意見聴取者・准教授)

多度津町のように、幼稚園と小学校が必ずしも近接、隣接、同一敷地内に立地のところばかりではないので、他の市町にとっては、保育所、幼稚園の卒園生たちが、いくつかの小学校に行く、っていう例はたくさんありますし、入学を期に、また人間関係が広がり、そういうことも見えていますので、多度津町では、今までずっと、こういうふうになっていますので心配かもしれませんが、普通に送り出す側も受け入れる側も配慮していくっていう点で行われていることで、それがとても心配で、難しいことだとは言えないのではないかと思います。

(会長)

1園から、もし、4校へわかれるということになったら、せっかく出来上がった子どもたちの人間関係が、わかれてしまうという心配ですよね。

(委員)

心配と言うか、それが子どもたちにとってのデメリットとして捉えるべきものなのか、メリットとなるのか。子どもたちにとって、何が一番良いのかと問われたら、今言われたようなことであれば、悪いかたちでもないのかな、と。

(委員)

必ずしも悪いとは言えないという事ですね。でも、本当に1人だけしか、その小学校に行かないということであれば、もしかしたら寂しい思いをするかもわからないけれども、そのあたりは、小学校の先生が配慮はしてくださっていると思います。

うちなんかは、どっちかというと、豊原校区の子が大半なので、あと何人かが分かれるっていう場合もあるし、町外へ行くっていうケースもありますよね。引越しでね。そういう部分でも、連携っていうのはとっていますから、それによって小学校の先生の配慮はいただけているのだと思います。

(委員)

子どもたちがナーバスになるということもないことはない？

(委員)

ないことはないですが、大人でもね、一人だと静かになってしまうとかありますでしょうし。

(代理委員)

私立の保育所さんからですね、うちなんかだと来る子が一人だけとかありますけど、大きな学校ではないので。それでも、小学校へ来たら来たで、すぐ友達ができますので、心配はあまりしていませんね。

(委員)

新しい環境になる最初の段階の不安は、誰しも抱えるものですしね。

(委員)

でも、それを乗り越えていくことが、子どもにとってのちからになることですからね。同じ環境ばかりでおって、ある日突然、全然ちがう環境を知るっていうこともね。いろんな環境、いろんな人がいて、いろんな友達っていうことが、それこそ人間関係ですよ。

(委員)

今、多度津町だったら、幼稚園4園がそれぞれと小学校と連携しているので、それが1つになったとしたら、それぞれの小学校との連携、在園児たちが行く小学校と連携をするとすると、今よりは少し難しい部分もあるのかなと思いますけど、それも小学校との話し合いとかによって解決していくべきなのかなと思いますけどね。

(代理委員)

今だったら、例えば白方小学校と幼稚園では深い繋がりが有りますからね。それからすると、今後はどういう連携をすべきなのか、ちょっと考えてしまいますね。

(委員)

それよりも、一定規模というか、そういうあるべき姿の方が大切なので、それによって起こるデメリットの解消手段っていうのは今後、町の中でまた、作っていくべきことなのかなとは思っています。

(教育長)

あの、マトリックスの図で言うと、現状はデメリットを赤にしてあるところだけど、デメリットも想定しておいて、説得していけないと思います。

(会長)

メリットがデメリットであったりもしますのでね。どう捉えるかということでもあるでしょう。それでは、(4)の今後の検討委員会の大まかな流れのところをお願いします。

【事務局より説明】

(会長)

よろしいでしょうか、他にこのスケジュール案に関しましては。8月で一応、終わりだということでしたが、まだ続けていただくということもご了解していただけますかということでしたが。よろしいですか。

その他ないようでしたら、今日、用意されている議題は以上でありますので、事務局の方にお返しします。

(課長補佐)

会長、お疲れ様でした。次回の会の日程を決めさせていただけたらと思います。6月21日、水曜日19時からということですのでよろしいでしょうか。では、お願いいたします。今後、各会の総会等で会長さんが交替されるであるとか、出てくると思いますが、本委員会に出席していただく方は引き続いてでもよろしいですし、それぞれの会の中でお決めいただければと思います。決まりましたら、こちらの方へご一報よろしくお願いいたします。以上で、教育課題検討委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上、散会